

軽自動車を所有している皆さんへ



5月1日(金)以降に令和8年度「軽自動車税納税通知書」を発送します

軽自動車税(種別割)は、4月1日現在において、主な定置場(駐車場)が村内にある軽自動車等(原付・小型特殊自動車・軽自動車・二輪の小型自動車)を所有している方にかかる税金です。通知書が届いたら、内容をご確認の上、6月1日(月)までに指定の納付場所で納付してください。口座振替の方は6月1日(月)に引き落としとなります。

▽対象の車両があるにもかかわらず納税通知書が届いていない方や、令和8年4月1日以前に名義変更・廃車済みの車両の納税通知書が届いた方は、お問い合わせください。

▽障がいのある方は減免となる場合がありますので、通知書が届いてから6月1日(月)までに申請してください。

軽自動車税の納付は…役場や金融機関での納付、口座振替のほか、①コンビニエンスストア②郵便局・ゆうちょ銀行(関東各都県と山梨県に限る)③スマホ決済アプリ④地方税お支払いサイト——のいずれかでも納付できます。※③・④は領収証書が発行されませんが、車検用の納税証明書は、納付後5週間程度を経過してから税務課で発行できます。

! 車検時の納税証明書の提示が原則不要となったため、令和9年度から軽自動車税納税証明書(車検用)の送付を廃止します。

【問い合わせ】税務課住民税担当(☎282-1711 内線1117・1118)

ふるさと歴史訪
〜自然を探して〜

村の花スカシユリの誕生史

東海村の花「スカシユリ」は、ユリ根・木子・種子のいずれかで増殖し、生育地を拡散させる生態的特性があります。なかでも種子は、海流や風で運ばれ長距離移動が可能です。これは、現在進めている「スカシユリ増殖事業」で得た新事実の一例です。そこで、得られた事実を基に、スカシユリが東海村にいつ頃到着し現在の状況になったのか、大地の歴史に想像を交えて紹介します。

東海村の「スカシユリの先祖」の故郷は、現在の東シベリアから中国北東部です。日本列島へは、今から2万年以上前の氷河時代に移ってきました。海面が現在より150メートルも下がった時代で、シベリア大陸と樺太北海道と本州が、陸続きとなり、北海道にはマンモスやヒグマなども移りすみました。

「スカシユリの先祖」は、陸続きとなった大地でその特性を利用しながら、北海道方面に生育地を拡大し、新しい種類も誕生させました。その後は、本州(青森県)に進出しスカシユリを誕生させています。さらに、その種子は海流に乗って本州の太平洋と日本海の沿岸を漂流・南下しました。その間「海岸に漂着した種子が開花し、実った種子が風で再び海に運ばれて漂流」を繰り返して、東海村に到着しました。

東海村文化財保護審議会委員

菊池 芳文

その時代の東海村は亜寒帯の環境下で、土地も広大で海岸線は現在よりも15キロメートルも東側にあり、その海岸に漂着した種子が発芽し開花しました。ここでも増殖の特性を生かし、拡散を繰り返しながら繁茂しました。しかし、その後の温暖化で海面が上昇し陸地は海に沈み、現在の環境へと変化していきました。それに伴って、スカシユリも生育地を移動させ、長い年月をかけて私たちの前でオレンジ色の花を開花させることとなりました。

